

献呈の辞

根間弘海先生の定年ご退職に寄せて

根間弘海先生は、平成25年3月末日をもって、定年によりご退職なさいます。専修大学における在職期間は、27年と大変長きにわたります。長寿社会とはいえ、古希を迎えられたことは非常に喜ばしく、また、おめでたいことではあります。大学の規則とはいえ、本学の教壇から離れることは、寂しくもあり、また、残念なことです。とりわけ、現在の大学が置かれている厳しい状況に鑑みますと、根間先生の高く、なおかつ幅の広い学識を本学が失うことは、大きな痛手であることは言うまでもないことです。ここに根間先生のご略歴と本学や社会へのご貢献を紹介し、本学を代表し、感謝の意とともに、惜別の念を表します。

根間弘海先生は、1943年2月に沖縄県宮古島でお生まれになり、1965年3月に琉球大学文学部英語英文科をご卒業なさいました。ご卒業後、沖縄県立コザ高等学校の教諭に就任しましたが、約1年後に休職なさり、1966年6月に聖マイケル大学大学院に進学し、英語教授法を専攻、文学修士号を取得なさいました。帰国後、沖縄女子短期大学英語商業科講師に着任されました。その後1970年6月にハワイ大学大学院に進学し、言語学を専攻、1972年1月に文学修士号を取得されるとともに、博士課程へ進学し、1974年2月に単位取得満期退学されました。

東北大学大学院文学研究科英語学専攻研究生を経て、1975年4月に金城学院大学文学部に講師として入職されました。翌年には助教授に昇格、1981年4月には、弘前大学人文学部へ助教授として転出、専修大学経営学部へは、1986年4月1日に教授として入職されました。その間、中央大学、東海大学で非常勤講師もされております。英語の音声学・音韻論（リズム、強勢、プロソディ、母音、子音）をご専門としながら、本学では、英語教員として幅広くご活躍なさいました。英語関連のご業績は多数のご著書を含めて150件ほどにも及びます。

同時に、相撲界への造詣が深く、ことさら行事の軍配の房の色について、文化人類学・民俗学からアプローチし、4冊のご高著を含む60件ほどのご業績を残されました。

これらのご研究の一部は、2001年7-9月（ボストン）ならびに、2007年7-9月（エルサレム）の期間、短期在外研究員として取り組んだ成果であることをうかがうことができます。

このように研究にご熱心に従事しながらも、学内で様々なご活動をなさっていただきました。LL研究室運営委員会委員はのべ10年間に及びます。その間、1998年から2000年までの間は委員長の要職を勤められました。また、学生相談室員、教員資格審査委員会委員、教養課程委員会委員、など数々の委員を歴任されております。

教授会における温厚で丁寧なご発言は、まさに紳士的と表現するに相応しく、決して間違った方向へと向かわせないための力強さと、配慮の行き届いた内容であったことが印象的です。また、晩年に積み重ねられた、社会から非常に高く評価されている相撲界のご業績は、多くの人達からの尊敬の対象となっております。

以上、根間弘海先生のご活動の一端を紹介させていただきました。先生の研究上、教育上、学内

運営上など様々な側面での功績は大変顕著なものがあり、経営学部は、平成24年11月13日の教授会にて、満場一致で、根間先生を専修大学名誉教授に推薦させていただきました。ここに根間先生から様々な形でご指導をいただいた後輩教員の最近の研究成果を募り、「専修経営学論集第96号」を「根間弘海教授退職記念号」とし、根間先生に謹呈し、経営学部教員一同、深甚なる謝意と惜別の意を表する次第であります。

根間先生が定年ご退職後も健やかであり、ご活躍なされることを祈念するとともに、本学ならびに本経営学部さらなるご指導とご鞭撻をお願い申し上げ、これまでのお礼とお別れのことばとさせていただきます。

平成25年3月

専修大学経営学部長 馬場杉夫